（郵遞局認可）

（日曜日休刊）（定價金三錢）

時事新報

第千二百五十三號
明治十九年四月十九日 月曜日
舊丙戌三月十六日（己酉）
（西暦一千八百八十六年）

社告

○時事新報預約御購讀被成下候ニハ新報代價並ニ郵便料ハ必ズ前金ヲ以テ御拂入被成下度候又前金相切レ候ヘハ其日限リ新報ノ送達相見合セ候

○新報代價並ニ郵便料トシテ御送附相成候金員當方ニテ正ニ落手仕候節其都度書面ヲ以テ御通知ハ不申上其代リニ毎日御送達申上候新報ノ帯封表面御名前ノ脇ニ（何月何日）ト記入仕置候間御覧可被成下候是ハ此日迄ノ新報代價並ニ郵便料トモ御拂濟相成居ルニ付此日マデハ新報送達仕候ト申ス事ニ候

○郵便爲替又ハ銀行爲替等ヲ以テ時事新報代價御拂入レ被成下候商當方ノ名宛ハ（時事新報社）ト致シ郵便爲換ナレバ（東京麹町本局）ニテ受取ベキ樣御取組被成下度候

○御住所ノ御都合ニテ郵便爲換又ハ銀行爲換等御取組被成下候嚴御不便ノ御方ニ限リ時事新報代價並ニ郵便稅共一錢又ハ二錢ノ郵便切手ニテ御拂入レ被成下候テ苦シカラズ候

○時事新報預約購讀ノ諸君ニテ住所御移轉等ノタメ新報配達先ヲ御取替ヘ被成度節ハ新舊兩方ノ所番ヲ併テ御通知被成下度候

時事新報

南京米の受渡

目下東京米商會所にて限月米を賣買するの法は武藏中米を建米即ち米の價位を知る爲めの標準本位と定め例へば肥後上米は建米よりも一石に付き四十錢上格、同中米は同格、同下米は三十錢下格等の格附を立て此格附を照ふして現米を受渡せしむるものとし斯くて向よ二箇月三箇月を期して互に賣買の約定を爲さ或は期限の来ざ至らざる前に賣りては買ひ、買ふては賣り賣買正しく平均して差引精算し盡すもあり或い約定期限に至り現米と受渡せるものあり後の場合には現米檢査人の鑒定あて其米の格と定め格附表に照らして相授受せしむるを例とす然るに同會所は規約にて三箇年以上の古米と陸稻、及び南京米は驟定困難なりとの申分ふて現に其受渡と禁ぜ置く由なり古米陸稻の事は姑く置き南京米の受渡と禁ぜるの一事は我輩少さく異論なきを得ず抑も彼の俗ふ南京米と稱するものは決して支那南京邊にて產する米に非ず我國人の外情に通せざる、當初此米の支那の方角より來り時ふ支那人即ち俗間にいふ南京人の手を經るとあるが爲め目するゐ南京米と以てしたるあらん所謂南京米い安南、暹羅、緬甸、印度等の地ふ產し產地の異なるゐ隨て品質に精粗あるは勿論、其形ゐ丸況あり細長さあり通例の南京米は日本米に比して目方凡そ一割の增量あり隨て之を炊きたる時の粗ゑ方よろゑく甚ざ徳用なりとの事にて唯明治十八年中も南京米の輸入は十餘萬石元價六十七萬圓に上りたりと云ふ即ち彼の南京米は日本の市場に於て一廉の商品としく通用す可き者なるゐ東京幷ふ各地の米商會所ふくは何故其受渡と禁ずるや南京米の產地品質と鑒定し難く其格附と定ると容易ならずと云ふが爲か現ふ英國倫敦の市場にては南京米の產地品質に因り凡そ十等計りの格附を立て差支あく之と受渡をるに非ずや畢竟今の日本の米商が丸で南京米の事と知らず此米は何れ地ゐ產するや陸稻なるか水田米なるか收穫の費用は凡そ何程ふて之れと日本に輸入すれば其費用又何程なるや日本米い遠方に運送する間に動もすれば風味を變ず分量を減ず甚ざしきい臭氣を生ずるとあれども南京米に此等れ患少るきは何故なるや之れを搗くに日本流の臼杵水車等と用ゆるや或ひは西洋風の米搗機械と用ゆるや曾て此の過に注意したることもおく況して其の米の產地品質如何に至つては漠然とえて東西南北とも知らず恰るも盲人色を判するが如き觀あるは畢竟古來の陋習、米商人れ無學無眼、米の取引を唯だ日本內にのミ限りて東方亞細亞各國の品を廣くするれ聽力なかりしが故集め以て米商賣の區域を廣くするれ聽力なかりしが故あらんと雖ども今や外國貿易と張るの急に當りては日本各地の米商會所ふても南京米の受渡を許そにその事甚いゞ難かゞざるが如し先づ手始めに南京米檢査人を置き之と安南及び印度地方に派遣して實地に就き米の品質鑒定を會得せしむるゐ或は各地の南京米と取寄せて其檢査方ふ慣れしむるか或は海外の商品なれば賣方ふ米檢査人を得れば其鑒定に因り建米に比較して南京米に上下の格附と立て例へば西貞上米は一石に付き建米よりも若干錢の上格、ベンゴル下米と若干錢の下格等の差と示ふて內地米同樣に受渡せしむると容易なるべし右の如く米商會所にて南京米を取寄せて其檢査方ふ慣れにして適當ある南京米を渡すを得策なりと信ずるとあるも之と取寄するの手續甚ざ乙甲にして矢張り日本米の受渡しに過況ざるべしなど云ふ者もあらんかあれども實際に於ては決して然らず今の運輸の便利活潑ある我が東京大坂より見れば英領香港は內地の北陸道よりも近況とあり仮に今日東京大坂の商人が電信と以て南京米と香港に注文をきば荷物は十日前後に來着して越中、越後れ米を呼ぶよりも却て時日の速きことありと云ふ運輸の便い斯の如くして且近來の實際に於ても毎年何十萬石の輸入ゐり各地の米商會所は尙や何と苦んで其受渡を許さゝるや我輩は失敬ながら之と米商人の小腦新眼の罪ふ歸せざるを得ざるあり（未完）

官報

◎勅令　陸地測量局印刷局ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治十九年四月十五日　內閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第十七號

造幣局官制

第一條　造幣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣鑄造ノ事ヲ掌ル○第二條　造幣局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ　事務長、事務次長、技術官、屬○第三條　事務長ハ一人奏任一等二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事務ヲ掌理ス○第四條　事務次長ハ一人奏任トシ現任ノ事務長ノ次等以下トス事務長ノ事務ヲ佐ク○第五條　技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス○第六條　屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事ス○第七條　造幣局ニ總務部會計部第一部第二部第三部第四部及第五部ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

印刷局官制

第一條　印刷局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ諸印刷抄紙ノ事務ヲ掌ル○第二條　印刷局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ　事務長、事務次長、技術官、屬○第三條　事務長ハ一人奏任一等二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事務ヲ掌理ス○第四條　事務次長ハ一人奏任トシ現任ノ事務長ノ次等以下トス事務長ノ事務ヲ佐ク○第五條　技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス○第六條　屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事ス○第七條　印刷局ニ總務部會計部印刷部及抄紙部ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

○勅令第二十號　會計檢査院官制

第一條　會計檢査院ハ政府ノ會計ヲ檢査スル爲ニ左ノ職員ヲ置ク　院長　副院長　書記官　檢査官　檢査官補○第二條　院長ハ一人勅任一等トス內閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ國庫及各廳金銀物品ノ會計官有財產ノ增減作業資本別種保管等諸常務ヲ掌ル　審査判定及證明ノ手續ニ關スル檢査ノ規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル○第三條　院長ハ院中ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス○第四條　院長ハ各官廳中一部ニ屬スル會計ノ檢査ヲ其廳ニ委任シテ之ヲ報告セシムルコトヲ得○第五條　院長ハ檢査上必要ト認ムル簿冊書類等ヲ點檢シ及主任官吏ノ辯明ヲ求ムルコトヲ得○第六條　院長ハ金庫倉庫及出納ノ實況其他事業ノ審査ヲ要スルトキハ豫メ其旨ヲ通知シ檢査官ヲ其廳ニ派遣シ主務官吏ノ立會ヲ求ムルコトヲ得○第七條　院長ハ會計正當ナリト判定シダルトキハ主任官吏ニ對シ認可狀ヲ下付ス爲サンメ又ハ時宜ニ依リ直ニ內閣總理大臣ニ具狀シ處分ヲ請フコトヲ得○第八條　院長ハ每會計年度ノ會計ニ關シ檢査ノ功程ヲ內閣總理大臣ニ上申スルコトヲ得○第九條　副院長ハ一人勅任二等トス院長ノ職務ヲ佐ケ又ハ院長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス○第十條　書記官ハ奏任トシ二人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌ル○第十一條　檢査官ハ奏任トシ十八人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ會計檢査ノ事務ヲ分掌ス○第十二條　檢査官補ハ判任トス檢査官ニ分屬シテ會計檢査ノ事務ニ從事ス○第十三條　屬ハ判任トス書記官ニ屬シテ書記會計ノ事務ニ從事ス

○閣令第八號

一等郵便局及一等電信分局ノ地位ヲ定ムルコト左ノ如シ但二等郵便局及二等電信分局以下ノ地位ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

明治十九年四月十六日　內閣總理大臣　伯爵伊藤博文

一等郵便局

武藏國東京　攝津國大坂
攝津國神戶　肥前國長崎
尾張國名古屋　肥後國熊本
一等電信分局

武藏國東京　攝津國大坂
攝津國神戶　肥前國長崎
武藏國東京　山城國京都
攝津國神戶　渡島國函館

○敘任

任判事　文部書記官正七位
任文科大學教授　法科大學教授從六位
敘奏任官三等　文科大學教授從六位
任事比羅宮宮司　事比羅宮禰宜

○辭令

大審院詰ヲ命ス　檢事　山田喜之助
東京始審裁判所詰ヲ命ス（以上四月十六日司法省）　檢事　粟屋景明
第二期金海重罪裁判長ヲ命ス　判事　亂川可貞
判事　野間賢
（各通）

第二期岡山重罪裁判陪席ヲ命ス（以上四月九日大坂控訴裁判所）　判事　笹岡雅房

第二期裁判所　武藏國橫濱　越後國新潟
第二期裁判所　武藏國橫濱　越後國新潟

○爭端事件

事ヲ掌ル○第二條　印刷局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ　事務長、事務次長、技術官、屬○第三條　事務長ハ一人奏任一等二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事務ヲ掌理ス○第四條　事務次長ハ一人奏任トシ現任ノ事務長ノ次等以下トス事務長ノ事務ヲ佐ク○第五條　技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス○第六條　屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事ス○第七條　印刷局ニ總務部會計部印刷部及抄紙部ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

○勅令第二十號　會計檢査院官制

第一條　會計檢査院ハ政府ノ會計ヲ檢査スル爲ニ左ノ職員ヲ置ク　院長　副院長　書記官　檢査官　檢査官補○第二條　院長ハ一人勅任一等トス內閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ國庫及各廳金銀物品ノ會計官有財產ノ增減作業資本別種保管等諸常務ヲ掌ル　審査判定及證明ノ手續ニ關スル檢査ノ規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル○第三條　院長ハ院中ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス○第四條　院長ハ各官廳中一部ニ屬スル會計ノ檢査ヲ其廳ニ委任シテ之ヲ報告セシムルコトヲ得○第五條　院長ハ檢査上必要ト認ムル簿冊書類等ヲ點檢シ及主任官吏ノ辯明ヲ求ムルコトヲ得○第六條　院長ハ每會計年度ノ會計ニ關シ檢査ノ功程ヲ內閣總理大臣ニ上申スルコトヲ得○第九條　副院長ハ一人勅任二等トス院長ノ職務ヲ佐ケ又ハ院長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス○第十條　書記官ハ奏任トシ二人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌ル○第十一條　檢査官ハ奏任トシ十八人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ會計檢査ノ事務ヲ分掌ス○第十二條　檢査官補ハ判任トス檢査官ニ分屬シテ會計檢査ノ事務ニ從事ス○第十三條　屬ハ判任トス書記官ニ屬シテ書記會計ノ事務ニ從事ス

○閣令第八號

一等郵便局及一等電信分局ノ地位ヲ定ムルコト左ノ如シ但二等郵便局及二等電信分局以下ノ地位ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

明治十九年四月十六日　內閣總理大臣　伯爵伊藤博文

一等郵便局

武藏國東京　攝津國大坂
攝津國神戶　肥前國長崎
尾張國名古屋　肥後國熊本
一等電信分局

武藏國東京　攝津國大坂
攝津國神戶　肥前國長崎
武藏國東京　山城國京都
攝津國神戶　渡島國函館
武藏國橫濱　越後國新潟
陸前國仙臺

○敘任

任判事　文部書記官正七位
任文科大學教授　法科大學教授從六位
敘奏任官三等　文科大學教授從六位
任事比羅宮宮司　事比羅宮禰宜

○辭令

大審院詰ヲ命ス　檢事　山田喜之助
東京始審裁判所詰ヲ命ス（以上四月十六日司法省）　檢事　粟屋景明
第二期金海重罪裁判長ヲ命ス　判事　亂川可貞
判事　野間賢
（各通）

第二期岡山重罪裁判陪席ヲ命ス（以上四月九日大坂控訴裁判所）　判事　笹岡雅房

第二期裁判所　武藏國橫濱　越後國新潟
第二期裁判所　武藏國橫濱　越後國新潟

○爭端事件

事ヲ掌ル○第二條　印刷局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ　事務長、事務次長、技術官、屬○第三條　事務長ハ一人奏任一等二等トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事務ヲ掌理ス○第四條　事務次長ハ一人奏任トシ現任ノ事務長ノ次等以下トス事務長ノ事務ヲ佐ク○第五條　技術官ハ事務長ノ指揮監督ヲ承ケ工事ヲ分掌ス○第六條　屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ニ從事ス○第七條　印刷局ニ總務部會計部印刷部及抄紙部ヲ置キ其分掌規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

○勅令第二十號　會計檢査院官制

第一條　會計檢査院ハ政府ノ會計ヲ檢査スル爲ニ左ノ職員ヲ置ク　院長　副院長　書記官　檢査官　檢査官補○第二條　院長ハ一人勅任一等トス內閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ國庫及各廳金銀物品ノ會計官有財產ノ增減作業資本別種保管等諸常務ヲ掌ル　審査判定及證明ノ手續ニ關スル檢査ノ規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル○第三條　院長ハ院中ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス○第四條　院長ハ各官廳中一部ニ屬スル會計ノ檢査ヲ其廳ニ委任シテ之ヲ報告セシムルコトヲ得○第五條　院長ハ檢査上必要ト認ムル簿冊書類等ヲ點檢シ及主任官吏ノ辯明ヲ求ムルコトヲ得○第六條　院長ハ每會計年度ノ會計ニ關シ檢査ノ功程ヲ內閣總理大臣ニ上申スルコトヲ得○第九條　副院長ハ一人勅任二等トス院長ノ職務ヲ佐ケ又ハ院長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス○第十條　書記官ハ奏任トシ二人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌ル○第十一條　檢査官ハ奏任トシ十八人ヲ以テ定員トス院長ノ命ヲ承ケ會計檢査ノ事務ヲ分掌ス○第十二條　檢査官補ハ判任トス檢査官ニ分屬シテ會計檢査ノ事務ニ從事ス○第十三條　屬ハ判任トス書記官ニ屬シテ書記會計ノ事務ニ從事ス

○閣令第八號

一等郵便局及一等電信分局ノ地位ヲ定ムルコト左ノ如シ但二等郵便局及二等電信分局以下ノ地位ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

明治十九年四月十六日　內閣總理大臣　伯爵伊藤博文

一等郵便局

武藏國東京　攝津國大坂
攝津國神戶　肥前國長崎
尾張國名古屋　肥後國熊本
一等電信分局

武藏國東京　攝津國大坂
攝津國神戶　肥前國長崎
武藏國東京　山城國京都
攝津國神戶　渡島國函館
武藏國橫濱　越後國新潟
陸前國仙臺

○敘任

任判事　文部書記官正七位
任文科大學教授　法科大學教授從六位
敘奏任官三等　文科大學教授從六位
任事比羅宮宮司　事比羅宮禰宜

○辭令

大審院詰ヲ命ス　檢事　山田喜之助
東京始審裁判所詰ヲ命ス（以上四月十六日司法省）　檢事　粟屋景明
第二期金海重罪裁判長ヲ命ス　判事　亂川可貞
判事　野間賢
（各通）

第二期岡山重罪裁判陪席ヲ命ス（以上四月九日大坂控訴裁判所）　判事　笹岡雅房

第二期裁判所　武藏國橫濱　越後國新潟
第二期裁判所　武藏國橫濱　越後國新潟

○爭端事件